

「ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト」
読書活動支援者育成事業 地区別研修
主催：福島県教育委員会

参加費無料
(先着60名様)

～よみきかせのスキルアップを図りませんか～ 読書ボランティア研修会

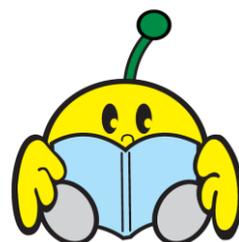
日時
会場

平成28年9月15日(木)

10:20～16:00 (受付開始9:50)

福島県立図書館

福島市森合字西養山1 024-535-3218



対象者

子どもの読書活動推進に向けて活動する方
(読み聞かせボランティア、学校職員、
保育所・幼稚園・認定こども園職員、公共図書館職員等)

第1部

10:30～12:00

講話「子どもと本のかけ橋に」

講師：JPIC読書アドバイザー 児玉ひろ美 氏

第2部

13:00～14:30

講義「子どもと本をつなぐフックトーク」

講師：東京子ども図書館事務局長 清水 千秋 氏

第3部

14:40～15:50

講義・演習「おはなし会を楽しむために」

講師：「まつお文庫」主宰 松尾 福子 氏

お申込み
お問い合わせ

福島県教育庁県北教育事務所
総務社会教育課

TEL：(024) 523-1627
FAX：(024) 523-1559
E-mail：noguchi.kouya@fcs.ed.jp

読み聞かせの大切さ

子どもは、絵本などのおはなしを聞くことが大好きです。
物語の世界にひたる体験はこころを育てます。



物語による体験が 想像力を育てます

子どもが物語を聞いているときは、登場人物になりきって、想像の世界を自由に楽しめます。

登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちにふれることで、他人の感情や思いを知ることができます。

物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力などを身につけていきます。

耳からおはなしを楽しむ

子どもは、ことばを耳で覚えます。耳からどんどん新しいことばを吸収していきます。

ことばを覚えるとともに、耳から聞いて具体的なものや場面などのイメージを持ったり、さまざまな気持ちを感じたりすることが大切です。

文字が読めることと 本を読めることは別です

子どもが「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていませんか。

文字を読めても、おはなしを楽しめるとは限りません。

また、ひとりで本が読めるようになっても、おはなしを聞くよろこびは別のものです。小学生には小学生の読み聞かせの楽しさがあります。

「昔ばなし」の読み聞かせ

昔ばなしは、ことばで語り伝えられてきたおはなしですので、読み聞かせに向いています。

先人の知恵がつまったおはなしを聞くことを通じていろいろな体験をすることは、子どもの成長につながります。

— 文部科学省ホームページより —

申込み

参加希望者は下記により

FAX (024-523-1559)、電話 (024-523-1627) または
電子メール (noguchi.kouya@fcs.ed.jp) で
県北教育事務所 (担当: 野口) にお申し込みください。

氏名	住所	連絡先 (電話番号)
	〒	
所属する読み聞かせ等の団体名		読み聞かせ経験年数
		年
日頃の主な活動場所 (〇〇図書館、〇〇小学校等)	得意な分野 (読み聞かせ、わらべうた等)	

※ 申込みにご記入いただいた個人情報は、本事業の参加にかかわる目的以外に利用しません。